

# 世界有数のミシンメーカーが、次の100年に向け走り出す

## 株式会社ジャノメ



代表取締役社長  
齋藤 真氏

長寿の  
秘訣

100年に及ぶ技術・ノウハウの蓄積を生かす  
国内、北米、欧州、その他 - の4市場を開拓

2021年10月、創業100年を機に「蛇の目ミシン工業株式会社」から「株式会社ジャノメ」に社名が変わった。ミシンだけの会社というイメージの一新を図り、併せて、ジャノメブランドのさらなる浸透を狙った社名変更である。新生ジャノメが次の100年に向け走り出した。

### ◎産業機器を「第2の柱」に育てる

「コロナ禍が思わぬ追い風になっている」。齋藤真社長は近況をそう説明する。2020年から足かけ3年。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、人々の日常はマスク着用と巣ごもり生活が“定番”となった。そんな中、マスクを手作りする、巣ごもり・ステイホームのホビーとして縫製品を作るといった向きが増え、家庭用ミシンの底堅い需要が続いている。

1921（大正10）年創業のパイン裁縫機械

製作所は、帝国ミシン、蛇の目ミシン、蛇の目ミシン工業と社名を変え、初めて「ミシン」が付かない「ジャノメ」になった。そこにはミシンに続く2本目、3本目の柱を樹立しようとの狙いがある。

直近の売り上げ構成比を見ると、ミシン等の家庭用機器が80%強を占め、残り20%弱が産業機器（13%）、IT関連（5%）、その他となる（2021年度第2四半期）。そのため、次なる柱の候補は産業機器やIT関連となるが、実は、産業機器事業は30年前に「第2の柱」を目指し立ち上げている。直近の構成比13%は「柱」と言うには微妙な比率で、社名変更を機に、同事業を大きく伸長させていく。

産業機器のメイン製品は卓上ロボットとサーボプレス。卓上ロボットは塗布、組み立て、基板分割、はんだなど多目的に対応し、現場作業の省力化・効率化に役立つ。一方、



創業初期の集合写真



国内トップフラッグ機種 SECiO14000

サーボプレスは、内蔵のサーボモーター、ロードセルなどにより、フレキシブルで高精度なプレス作業を実現する。どちらも多品種少量生産に適合し、省エネ・環境対応の側面もあるため、時代のニーズに合致する。

### ◎海外市場を深掘りする

社名からミシンを外した意図は、もちろん“脱ミシン”ではない。齋藤社長は「大黒柱をより太く強くしていく」と祖業の拡充に意欲を燃やす。100年に及ぶ技術・ノウハウの蓄積が、国内はもちろん世界でも有数のミシンメーカーを育んだ。今、先人たちの偉大な資産を生かし、“成熟製品”とも思えるミシンの進化形を生み出そうとしている。環境に配慮したミシンなど、時代に求められる形を具体化させていく。

ところでジャノメの売上高を地域別に見てみると、国内、北米、欧州、その他地域の四つがいずれも20%台の比率。国内外に二分すると、国内28%、海外72%で、海外が主要マーケットとなる。

今後、グローバル企業として海外マーケットをさらに深掘りしていく。その一環として、インドをはじめとするアジア市場の開拓に力を入れている。とくに、インドについては「人口十数億人の巨大市場で、家庭のミシンでサ



都心から約50分 緑に囲まれた本社（東京・八王子）

リー（民族衣装）を縫うような文化がある」（齋藤社長）と捉え、熱い視線を送っている。

グローバル展開を加速中のジャノメは、世界各国に拠点を構えている。そのため、「海外で働きたい、経験を積みたい」と希望する若手にはうってつけの会社となる。主力製品がミシンであることから、女性比率が高い（約35%）のも特徴。充実した育児・介護制度と相まって女性が活躍しやすい職場となっている。

齋藤社長はリクルートに関連して「技術系にしても営業にしても、センスのいい人に来て欲しい」と呼びかける。センスがいい悪いとはどういうことか、尋ねると「自分は何をしたい、こうやりたい、と常に考えているかがポイント。考えているとアイデアがふっと浮かぶ」と、センス＝考えることを強調する。

### 経営理念

「ジャノメは世界の人々の豊かで創造的な生活の向上を目指す」  
「ジャノメは常に価値ある商品とサービスの提供を通じて社会・文化の向上に貢献する」

### 会社概要

創 業：1921（大正10）年10月  
設 立：1950（昭和25）年6月  
所 在 地：東京都八王子市狭間町1463  
事業内容：家庭用ミシン、産業機器の製造販売、IT関連  
資 本 金：113億7,300万円（東証プライム上場）  
従業員数：連結：3,317名（2021年9月末現在）

